

テニス・ミュージアム

URL: <http://www.jta-tennis.or.jp/museum/> Email: museum@jta-tennis.or.jp Phone: 03-3481-2321 Fax: 03-3467-5192
公益財団法人 日本テニス協会 テニスミュージアム委員会 〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館



日本テニスミュージアム実現までのカウントダウン

(公財) 日本テニス協会 常務理事 ツアー機構・事業推進本部長 川延 尚弘

「オリンピック・パラリンピック招致に向けて、有明テニスの森を五輪基準に満たした会場に整備したい」と東京都の関係者が日本テニス協会を訪ねてこられたのが、2007年の春。ここから、五輪招致のドラマが始まりました。当時は2016年開催の立候補都市として招致委員会と準備を進めていましたが、後に「レガシー」というテーマを持って2020年の招致に向けてテニス競技もあらためて招致および準備活動に東京都と共に取り組みました。

五輪テニス施設の国際基準については、東京都の関係者はもちろん、国内テニス関係者でも精通される方は少なかったため、全体構想の青写真が出来るまでには時間を要しましたが、最終的には五輪開催が可能な施設計画として国際オリンピック委員会と国際テニス連盟からの承認を得る計画案が整いました。2016年以降に大規模な改修が計画されており、現在ある1万席のセンターコート他に、

5000席の1番コート、3000席の2番コート、8面の屋内コート、屋外コートは全て1面ずつ独立した試合コートを設計しています。

改修と同様に、有明テニスの森にとって重要なことは、五輪開催後の設備利用計画です。日本テニス協会では五輪で使用された諸室の一部をテニスミュージアムとしても貴重なテニス史の資料の保管、および展示場としての活用できるよう、将来的な施設利用計画を東京都に強く要望しています。日本テニスミュージアムが実現すると、そこは重要なテニス史の発信基地となり、未来永劫にテニス史を記録する重要な集約基地になることは間違いありません。五輪招致に成功した今、テニスミュージアム計画を実現させる上で、これ以上の好機はありません。テニス愛好者および関係者の皆様と共に貴重なテニス史が公開される日を楽しみにしています。

お礼と決意

(公財) 日本テニス協会 常務理事 総務・財務本部長 浅沼 道成



日本テニス協会 (JTA) は、2012年4月に公益財団法人として新たなスタートを切っております。日本におけるテニス界の代表公益法人としてテニスの普及や強化をはじめとしたテニス文化の継承と発展に寄与していく役割を担っています。このことは、多くの先人の方々の努力とその功績に支えられていることは当然です。明治初期に日本にテニスが伝来し、世界における清水選手や熊谷選手をはじめとした活躍が、現在の錦織選手や伊達選手を含めた日本選手の活躍につながっています。

昨年9月に2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、日本のスポーツ界、テニス界にとって大きなニュースとなりました。このことは、ニュースというだけではなく日本のテニス界にとって多くの「目標」と「夢」を与えてくれました。日本のオリンピックにおける初のメダル獲得は、1920年アントワープ大会のテニスの熊谷選手と柏尾選手の銀メダルでした。2013年度事業の中で上記のメダルのレプリカを作製させていただきました。2011年の日本体育協会創立100周年記念祝典では、この偉業に対して多くの賞賛を受けております。このような歴史の上に今があり未来が

築かれていくものです。今を生きる私たちがこの史実を整理し、さらに次世代へ残していかなければなりません。

JTAでは、2009年からテニスミュージアムの設立と運営を目指し「宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム基金」を創設して、中期5カ年計画のもとに活動を継続してきました。この間、基金目標の2000万円を越えたご寄附をいただき、皆様方の温かいご支援に大変感謝申し上げます。現在、テニスミュージアム設立に向けた史料の収集や整理などを含めた基盤整備を進めています。

私は現在、総務・財務委員長を務めさせていただき、テニスミュージアム委員会担当として小田委員長をはじめとした委員会のメンバーとともに中期5カ年計画のもと活動をまいりました。この基金を大切に活用させていただきながら、近い将来、JTAテニスミュージアムが設立される日に向け努力していきます。次の目標を東京オリンピック・パラリンピックの2020年を目指し、より具体的な姿をお見せできるものと決意しております。

最後に重ねて皆様のご寄附に感謝申し上げますと共に、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

楽天ジャパンオープン2013 主な展示



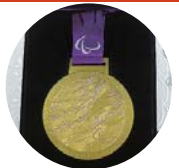
熊谷・柏尾組受賞
銀メダルレプリカ



熊谷氏紫綬褒章



同勲四等旭日小綬章



ロンドンパラリンピック
単優勝
国枝慎吾選手金メダル



ユニバーシアード
石津幸恵 (筑波大) 単金



ウィンブルドン女子優勝
プレート (レプリカ)
(横浜山手・テニス発祥
記念館所蔵)

パネル展示「世界の潮流・来日選手に学んだ近代テニス」は、webテニスミュージアムで公開しています。

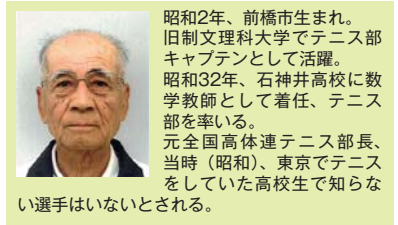


熊谷一彌氏ご子息一夫氏 (86歳) ご夫妻が来場されアントワープオリンピック (1920年) 銀メダルのレプリカをご披露する事が出来た。又、一彌氏が受章された紫綬褒章と勲四等旭日小綬章をご寄贈いただき、会場に展示。20数年振りに日本に帰国されたご夫妻は、展示中の一彌氏の写真、放映中の「甦る田園コロシアの熱戦」をご覧になり、最後に錦織選手の試合を30分程観戦、一夫氏はテニスをされたいそうだが、十分にテニスを堪能して帰宅された。

記 小田晶子

思い出の宮城黎子さん

ヒロシ
古川 溥



昭和2年、前橋市生まれ。旧制文理科大学でテニス部キャプテンとして活躍。昭和32年、石神井高校に数学教師として着任、テニス部を率いる。元全国高体連テニス部長、当時（昭和）、東京でテニスをしていていた高校生で知らない選手はいないとされる。

私が初めて宮城黎子さんにお目にかかったのは昭和34年の第14回東京国体でした。男子1部は石黒・高山の両選手、2部は鶴原さんと倉光さん、女子は宮城さんと福井選手とで何れも優勝でしたが、男女高校勢は準決勝にも進めず少々肩身の狭い国体監督の初体験でした。が、まさかこれが昭和52年迄続く年中行事になるとは考えもありませんでした。後になって当時を思い出してみても宮城さんと言葉を交わした記憶はありません。キャリアが立派すぎて遠い存在でした。

そんな大選手宮城さんの飾らぬお人柄に触れた思いを経験したのは東京国体の翌々年の秋田国体の折でした。この時民宿で泊めていただいたお宅が、床の間に近々お見えになる天皇・皇后両陛下に献上する銀細工が飾ってあるという何でも続くお家だったのですが、食事に添えて下さる酒粕の利いた色々な野菜の漬け物が実に美味しかったのです。「こちらでは保存食として上手に漬物を作ることは主婦としてとても大事なことなのです」という奥様のお話を伺いながら「美味しいワ」と箸を運んでいた宮城さんの姿が今でも目に浮かびます。この前年迄に全日本での単・複・混合の優勝回数が20を超えていた箸の大選手がとても身近に感じられたものでした。

当時からどれ程の年月が経った頃でしたか正確な記憶はないのです

が宮城さんも私も間違いなく高令者入りしていたのは確かなある日、テニス大会の会場でのことでした。「せーんせい」と呼ばれ振り向けば陽に焼けた素敵な笑顔の宮城さんでした。そして挨拶を返した私への第一声が「今度、子供達のフォームを撮って直ぐ再生してみられる機械を手に入れたの」でした。欲しかったものを手にした童女のようにも見えてしまったこの時の宮城さんを私は忘れることがないでしょう。

晩年の宮城さんには日本のテニス界について幾つかの「気がかりなこと」があると感じておられたのではと思います。そしてそれらのひとつひとつがクリアされてゆく姿をおだやかな笑顔で見守って下さっておられるような気が致します。



第77回インターハイの表彰式で優勝旗を渡す筆者。昭和62年北海道江別市にて

夢の実現に向けて

テニスミュージアム委員会委員長 小田 晶子



宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム

日本のテニス文化を守り、育てるために



日本テニスのメッカ・有明テニスの森公園に大きな夢を託して

中期5カ年計画を立ち上げ、早くも5年が経過いたしました。大変、多くの方々にご支援を頂き、お蔭様で目標額を大きく上回る寄附金累計額は、28,689,920円（3月末現在）となりました。皆様の温かいご理解、ご支援に有難く厚く御礼を申し上げます。

今期のメインテーマである史資料の電子化とシステム化、webテニスミュージアムの充実（P.3参照）、デ杯「甦る田園コロシアムの熱戦」（完成）、「日本女子選手・栄光への道のり～フェデレーションカップの時代～」(6月中旬完成予定)記録DVD作成などを行って来ました。中でも、現在、後藤光将先生が取り組んで居る戦前・戦後の古いテニス専門誌（テニス・ファン、ローンテニス他）の全面スキャンは、当時のテニス界の動きを知る上で、大変、貴重な史資料であり、一日も早くwebテニスミュージアムに公開したいと思っております。

皆様からお預かりしている貴重な浄財は上記の事業経費に充て、現時点で約1,000万円は設立準備金として留保して居ります。将来のテニスミュージアムは、時代とともに進化する技術、想像を遥かに超える時代が来る事が予想されますが、基本的には四大大会のテニスミュージアムに追随する事を目指しながら、新しい物にも目を向け継続事業費として大切に使用させていただきます。

有明テニスの森公園が、日本テニスのメッカとして定着して行く時、左記スケッチに在る様な広大な自然の中でゆったりと歴史の流れに触れながら、幅広い年齢層のテニス愛好家の方々が集い、談笑しながら楽しめるお洒落な空間としてミュージアムが出来る事を夢見て居ります。

JTAが公益財団法人に移行し、特定寄附金テニスミュージアム（テニスミュージアム活動以外には使えない）として財務サポート委員会が寄附金管理を行って居りますが、従来の「宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム基金」の設立理念、活動は何ら変更なく継続して居ります。

今後とも夢の実現に向け更なる充実を図って参りますので、引き続き関係各位のご理解とご協力、ご支援を賜ります様、切にお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、皆々様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

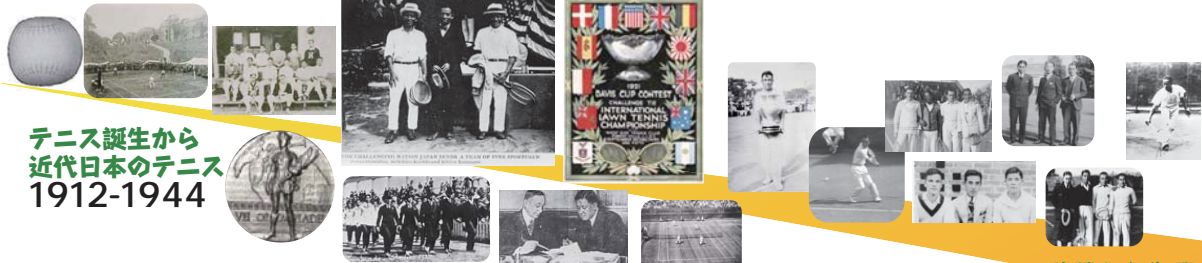
アイディアスケッチ・越智和夫（昭和23年生まれ）プロフィール
東京芸術大学美術学部工芸科卒業。モダンテニス誌カメラマン（第二号～最終号）。NHK美術部／映像デザイン部で番組美術デザイナー。テレビ日本美術家協会会員。日本工学院八王子専門学校放送映画科講師。鎌倉ローンテニス倶楽部会員。JTAテニスミュージアム委員会常任委員。

TENNIS MUSEUM

歴史の散歩道によろこそ

<http://www.jta-tennis.or.jp/museum/>

テニス誕生から 近代日本のテニス 1912-1944



敗戦から復興へ 国際舞台への復帰 1945-1964



テニスブーム到来 戦後テニス史 1965-1984



新時代のプロローグ 1985-2000



現代のテニス 2001-



webテニスミュージアムは、岡田邦子さん（テニスミュージアム委員会外部サポーター）の献身的な努力で充実が図られました。大変、読み応えのあるページになりましたので、是非、お楽しみください。

- 1921年～'22年にかけて、日本テニス界は硬式採用を決断
- 1945年、敗戦から立ち直った日本は国際舞台へ復帰。テニスブーム到来
- 1985年～2000年代、新しい時代のプロローグ

祝 デ杯、ワールドグループ復帰!!



「宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム基金」

中期5カ年計画支出累計（平成21年4月～平成26年3月）

（単位 円）

支出項目		金額
事業費	ニューズレター趣意書	944,222
	史資料データ化	6,100,762
	史資料修復費	12,127
	システム化	4,500,000
	銀メダルレプリカ	428,000
	備品	225,120
	小計	12,210,231
事務費	募金案内封入作業費	39,900
	送料通信費	167,590
	振替口座徴収料	104,880
	振込手数料	18,825
	免税領収書発行料	208,826
	事務用品	850
	その他	7,380
	小計	548,251
支出累計		12,758,482

平成26年3月30日現在

基金積立額累計	¥25,271,973
---------	-------------

〈掲示板〉

●テ杯「甦る田園コロシアムの熱戦」DVD(販売中)、フェド杯「日本女子選手・栄光への道のり～フェデレーションカップの時代～」DVD（6月中旬完成予定）テニス絵葉書（4枚/500円）は、JTAwebサイト出版物領布で販売しています。

URL:<http://www.jta-tennis.or.jp/>

●古いラケット、文献等のテニス史資料の情報、又、住所、姓名の変更も、JTAテニスミュージアム委員会Email:museum@jta-tennis.or.jpまでお知らせ下さい。

●テニスミュージアムの常設展示は有明テニスの森公園の事務所ホールで行なっています。お近くにお越しの際には、お立ち寄り下さい。

特定寄附金「テニスミュージアム」へのご寄附のお願い

振込先口座名：公益財団法人日本テニス協会 寄附金
金融機関：ゆうちょ銀行 口座番号：00130-0-504638
振込先口座名：公益財団法人日本テニス協会 テニスミュージアム寄附金
金融機関：三菱東京UFJ銀行 支店名：渋谷中央支店 口座番号：(普通) 0272922

テニスミュージアム委員会

委員長：小田晶子 副委員長：矢澤 猛
 常任委員：小林公子、武内 勝、福田達郎、小林やよい、西野 篤、越智和夫、小川あさ子
 プロジェクトチーム：宮城 淳、我孫子和夫、市山 哲、猪熊研二、川地 孝、栗岡 威、後藤光将、吉井 栄、佐藤孝裕